木曽林務課だより 2月

木曽地域でも生息拡大が進み、森林管理の大きな課題となるニホンジカの対策について、勉強会を行いました。

ニホンジカ獣害対策勉強会が開催されました

長野県内の多くの森林が、木材等に利用できる時代を迎え、森林の公益的機能を発揮させながら、持続的に利用していくために、森林を伐採し、再造林していくことが必要です。こうした若い森林を管理していく上で、全国で生息が拡大し、増加しているニホンジカに対する対策が大きな課題です。増えすぎたシカは、植栽した樹木への被害だけでなく、様々な植物を食べて、森林を含む生態系そのもののバランスを壊してしまう恐れがあり、木曽地域でも防除対策や捕獲対策を町村等とともに進めています。

そのため、問題が顕在していないが、シカの増加と生息拡大が進んでいる木曽地域の現状、そして今後の適切な対応について、関係者間で共有して、進めていくことを目的として、研究者をお招きして、木曽森林管理署及び南木曽支署、木曽森林ふれあい推進センターと勉強会を開催しました。

勉強会では、まず県鳥獣対策室が進めているシカの密度増加が木曽より進んでいる群馬県境の東信地域での捕獲促進に向けた調査結果を自然環境研究センターの荒木さんから報告していただきました。今回の調査からセンサーカメラ、赤外線カメラ搭載ドローン等による生息状況調査から、シカの生息分布や季節移動に合わせた捕獲が重要であることが報告されました。こうした知見から、増えてきている木曽地域でも、生息密度が低い今からシカの季節移動等の把握を進めるべきとの提案がありました。

木曽森林ふれあい推進センターの山本さんからは、センサーカメラやライトセンサス調査から、シカの目撃が増えていることとともに、わな捕獲の障害になる他のクマ等の錯誤捕獲防止試験について報告がありました。

パネル展示と取組報告

八代田さんの講演

森林総研関西支所から来ていただいた八代田主任研究員からは、シカの分布の変遷や、4，5年で個体数が2倍になることなどの特性や、シカを増やさないためには場所や、生息状況に合わせた方法で捕獲する必要があることなどをわかりやすく説明していただき、行政関係者とともに、捕獲対策に取り組んでいただいている木曽地域の猟友会の方も真剣に聞いておられました。

森林の持続的な公益的機能の発揮のため、シカの管理は不可欠であることから、こうした技術や知識を学ぶ取り組みを今後も続けていきたいと思います。

©長野県木曽地域振興局林務課　令和5年2月27日